

『北國新聞』文芸関係記事年表稿 (昭和篇⑧)

森 英 一

The Chronological Table of Literary Report in Hokkoku News(Syowa No.8)

Eiichi MORI

この年表は本紀要第五十四号(平成17・2刊)の『北國新聞』文芸関係記事年表稿(昭和篇⑧)を承けるものである。調査に際しては、金沢大学附属図書館所蔵のマイクロフィルムを使用した。

昭和三十五年

- | | | | | |
|---|---|------------------------------|----|-----------------------|
| 1 | 1 | 詩「元旦に」井上靖 | 6 | 「北国歌壇」長沢美津選 |
| 1 | 1 | 「不思議であわれなもの」亀井勝一郎 | 7 | 「天風浪々」井上靖 |
| 1 | 1 | 「彩雲」室生犀星 | 7 | 「国民文化の創造」上原専祿 |
| 1 | 1 | 「賀春」(☆俳句6句)久保田万太郎 | 9 | 「明日の記録映画」羽仁進 |
| 1 | 1 | 「光」(☆短歌3首)佐藤佐太郎 | 10 | 「雪国」杉原竹女 |
| 1 | 1 | 「文学あれこれ」(☆座談会)川端康成、高見順、三島由紀夫 | 10 | 「今年の問題の一つ」中川善之助 |
| 1 | 1 | 「ネズミの伝説」海音寺潮五郎 | 10 | 「はちまき」室木弥太郎 |
| 1 | 1 | 「むかしの金沢」深田久弥 | 11 | 「北国歌壇十二月賞」麻生路郎選 |
| 1 | 1 | 「片町今昔」谷口吉郎 | 11 | 「言葉や活字が多すぎる」唐木順三 |
| 1 | 1 | 「熊捕り」(☆新年創作文芸入選作)木田惣一郎 | 14 | 「新しい人間像」椎名鱗三 |
| 1 | 1 | 「一九六〇年への提言」堀田善衛 | 15 | 「成人の目によせて」亀井勝一郎 |
| | | | 15 | 「書評・上林暁『御目の零』」平田次三郎 |
| | | | 18 | 「北国歌壇一月賞」近藤芳美選 |
| | | | 18 | 「作者の言葉」有馬頼義 |
| | | | 19 | 「作者の言葉」久保田正衛 |
| | | | 20 | 「風熄まず」有馬頼義 8・17 210回完 |
| | | | 23 | 「僕の抱負 ことしもまた」安岡章太郎 |

- 〃 二月号の文芸作品」吉田健一
 〃 夕「金沢ロケした『雑草のような命』」原作者・森山啓
 25 夕「愚禿・親鸞」久保田正衛
 26 「火野葦平を悼む」尾崎士郎
 28 「昔の仲間」上林暁
 〃 「書評・阪上弘『ある秋の出来事』他」野島秀勝
 30 「日ソの文学交流」（☆対談）小田切秀雄、チャコフスキ
 2 「書評・外村繁『入門しんらん』」長田恒雄
 3 「北国俳壇二月賞」富安風生選
 7 「北国歌壇二月賞」近藤芳美選
 9 「北国柳壇二月賞」麻生路郎選
 11 「北国歌壇二月賞」長沢美津選
 12 「若い人は打算的」大庭さち子
 13 「書評・円地文子『私も燃えている』」佐伯彰一
 16 夕「金沢の出版」藤田福夫
 19 「金沢の雪」野田宇太郎
 〃 「書評・井上光晴『虚構のクレイン』」村松剛
 3 「都市の面影」小島政二郎
 4 「フランスから帰って」遠藤周作
 7 「西と東で音楽合戦―ベルリン便り―」西義之
 11 「最近の児童図書から」鳥越信
 12 「北国歌壇三月賞」近藤芳美、長沢美津選
 〃 「ことしの文学への期待」寺田透
 14 「北国俳壇三月賞」富安風生選
 17 「北国柳壇三月賞」麻生路郎選
 18 「読書案内・『敦煌』につづく『ゼロの焦点』」無署名
 21 「民話ブーム」山室静
 〃 「北国俳壇三月賞」細見綾子選
 25 「文学の敗北主義」吉田健一
 4 1 夕「四月の花」塩田紅果
 5 「北国俳壇四月賞」富安風生選
 7 「新学期を迎えて勧めたい五つの児童図書」鳥越信
 8 「四十年の告白―ある型破り教師の記―」伊藤武雄
 10 探偵作家クラブ（☆記事）
 〃 「狐」渡辺喜恵子
 11 「ニューヨークの日曜日」城山三郎
 12 「北国歌壇」近藤芳美選
 13 「北国歌壇四月賞」長沢美津選
 〃 夕「北国柳壇四月賞」麻生路郎選
 25 「カメラざらい」井上友一郎
 〃 金沢へ帰る、室生とみ子さんの遺骨（☆記事）
 5 2 「菊池寛の文学」福原鱗太郎
 4 「白樺五十年」武者小路実篤
 8 「訴えや主張のない映画―『ロペレ將軍』と『白い壁』の落差―」大西巨人
 9 「学生作家の問題」十返肇
 10 「北国歌壇五月賞」長沢美津選
 〃 夕「北国柳壇四月課題賞」麻生路郎選
 12 「北国俳壇五月賞」富安風生選
 14 「東京の魅力」神吉晴夫
 16 「観客席」戸板康二
 17 「北国俳壇五月賞」細見綾子選
 23 「六月号の文芸作品」吉田健一
 30 「日本のモラルの病理」戸田重基
 6 「たとい裏切られても―自民反主流派になにかを期待―」石原慎太郎

- 5 「ゼロの焦点」は快心作(☆記事、文春講演に三作家が来
県)
- 8 「茶道と俳句」大瀬飛天
- 9 「北国柳壇五月課題賞」麻生詩郎選
- 11 「北国歌壇六月賞」近藤芳美・長沢美津選
- 12 「北国俳壇六月賞」富安風生選
- 16 「北国俳壇六月賞」細見綾子選
- 19 「作者の言葉」五味康祐
- 22 「如月剣士」五味康祐 36・7・16 382回完
- 26 「白山を恋う」中西悟堂
- 27 「人間の解体と現代小説―七月の文芸時評―」佐伯彰一
- 7 「ナゾときにふける新人群―推理小説の現況―」無署名
- 4 「戦争ドラマ」加藤秀俊
- 5 「北国歌壇」長沢美津選
- 8 「北国俳壇七月賞」富安風生選
- 11 「文化自由会議の印象」中屋健一
- 12 「文学界半年の回顧」村松剛
- 13 「北国柳壇六月課題賞」麻生路郎選
- 13 「北国歌壇七月賞」近藤芳美・長沢美津選
- 20 「北国俳壇七月賞」細見綾子選
- 23 「書評・室生犀星『告ぐるうた』」中村慎吉
- 25 「こわい話」戸板康二
- 30 「衰えない推理小説ブーム―全集ものいぜん好調―」無署名
- 8 「恋と料理」古谷綱武
- 9 「北国歌壇八月賞」近藤芳美・長沢美津選
- 12 「北国俳壇八月賞」富安風生・細見綾子選
- 12 「北国柳壇八月課題賞」麻生路郎選
- 13 夕 「近づく折口信夫忌」山下久夫
- 14 「作者のことば」丹羽文雄
- 18 「この世の愁い」丹羽文雄 36・8・5 350回完
- 19 「書評『学童疎開の記録』」勝尾金弥
- 22 「裂けた顔」(☆絵と文)岡本太郎
- 29 「秋はきぬ」森美弥
- 9 「北国歌壇九月賞」近藤芳美選
- 10 テロものは文学でない、中野重治氏が金沢へ(☆記事)
- 11 「月にひかれる動物」木戸哲二
- 12 「北国俳壇九月賞」富安風生・細見綾子選
- 14 「北国歌壇九月賞」長沢美津選
- 15 「金沢での『海戦』―北陸新協公演に当たって―」(☆座談会)岡良一、伊藤武雄、松永敏
- 19 「推理小説時評」谷本敏雄
- 23 「旅心はるかに」青山兵吉
- 10 「わが愛する金沢」宮本憲一
- 2 1 「玉井敬泉さんの死」金崎肇
- 4 「志賀直哉著『夕陽』」阿川弘之
- 8 「映画の味」丸岡明
- 9 「庶民の哀歎つづる聖人像―ヨーロッパの聖堂めぐり―」向井潤吉
- 10 「北国歌壇十月賞」近藤芳美・長沢美津選
- 13 「北国俳壇十月賞」富安風生・細見綾子選
- 16 「だまされない方がバカ―こつとうの世界―」平岩弓枝
- 19 「作者のことば」柴田鍊三郎
- 20 「運命峠」柴田鍊三郎 37・8・25 518回完
- 26 夕 「追悼詩」草野心平
- 26 「秋深い越路の旅」高浜年尾

- 27 「秋のこころ」吉井勇
 「十一月号の文芸作品」吉田健一
 31 「推理小説の反省期」谷本敏雄
 11 「現代小説に欠けるもの」ノーマン・カズンズ
 2 「推理小説は文学」木々高太郎（☆談話）
 3 「なにを暖めるか」荒正人
 「被害者はごめんだー日本文学に現われるマゾヒズムの伝統」村松剛
 「映画『誓いの休暇』から」江藤淳
 6 「養老」小松砂丘
 8 「直木賞の池波正太郎氏」（☆談話）
 「文学者の政治発言」中野重治（☆談話）
 13 「北国柳壇十一月賞」富安風生推薦
 14 「北国歌壇十一月賞」長沢美津選
 16 「北国俳壇十一月賞」細見綾子選
 17 「感慨が深く胸に」木俣修
 18 「佳き町の佳き人」水芦光子
 「純文学作家が参加する空想映画」（☆記事）
 22 「中国の演劇」木下順二
 「テレビの美学」岡本太郎
 23 「金沢は心の故郷」窪川鶴次郎（☆談話）
 24 「文学と父、藤村の『嵐』『分配』」吉田精一
 「戦いと愛と孤独『蒼き狼』にみる井上文学」無署名
 「予想どおりの受賞、新潮社文学賞の庄野潤三氏」（☆記事）
 12 「文学と父、中野重治の『村の家』」杉森久英
 1夕 「北国俳壇十二月賞」富安風生選
 3 「北国俳壇十二月賞」富安風生選
 6 「あすの日本への発想」梅棹忠夫氏、吉本隆明氏（☆記事）
 8 「道化性の文学―深沢七郎の『風流夢譚』」村松剛
- 7 「暗さと決別できぬ―『風流夢譚』考―」小島伊三男
 「ことしの出版界―『敦煌』がトップ―」田所太郎
 「古川達夫氏の『焰の中の木』」藤田福夫
 「北国歌壇十二月賞」長沢美津選
 「推理小説は文学か」谷本敏雄
 「文学と父、鈴木三重吉の『桑の実』」福田清人
 「文学賞作品の分析―現代性を離脱した共通点」無署名
 「ことしの文学回顧―未知数の新人群」平野謙
 晶子女史の歌碑を、ゆかりの戸室山に（☆記事）
 「書評『渦』（井上靖著）」小松伸六
 「『裁木の石牢』と南条範夫氏―著者をたずねて―」無署名
- 昭和三十六年
- 1 「福寿草」高見順
 「日に新なる者」川端康成
 「おとなりさん東京対談」深田久弥、佐伯彰一
 「第八回北国文芸賞」（☆短歌、俳句、創作文芸）
 「地の霧」（☆短歌10首）近藤芳美
 「お若い正月」森山啓
 「文壇展望」無署名
 「男の魅力女の魅力」（☆対談）曾野綾子他2名
 女優の渡辺美佐子さん、作家の広津和郎氏を訪問（☆記事）
 「七福神詣」水原秋桜子
 「正月の感想」丹羽文雄
 「新年創作文芸入選作・花吹雪」牧文枝

- 9 「プロ野球ことしの興味」藤沢桓夫
 「賀状あれこれ」藤田福夫
 「サシミのツマ」勝尾金弥
- 10 「結氷」(☆短歌10首)古川達夫
 「若いいのちの義務」田中澄江
 「雪の季題」杉原竹女
- 17 「著者をたずねて―推理小説『八人目の敵』菊村到」
 「脱皮する市街と百万石の意識」若林喜三郎、浅野郁代、
 雄谷一郎、吉田圭蔵
- 26 きょうの人・芥川賞受賞三浦哲郎(☆記事)
 「ベストセラ―の魅力―松本清張・前田慶穂、北杜夫・芳
 井光一、井上靖・森井道男」
- 27 「サド文学の栄光『悪徳の栄え』起訴事件に思う」篠田一
 士
- 28 「古風さの感動・芥川賞の三浦哲郎氏」小松伸六
 夕 「金沢の雪」長沢美津
- 31 「著者をたずねて『二本の銀杏』海音寺潮五郎」
 「文壇トピックス・深沢七郎、斯波四郎」
- 「ただいま執筆中・井上靖、菊村到」
- 2 「合理精神」新田義之
- 1 「文学と父、窪田空穂の『歌』」木俣修
 「育ちゆく若きテロリスト群」大宅壮一
- 3 「新しい小説の型『海辺の光景』に注目」十返肇
 「受験期」勝尾金弥
- 6 夕 事件の責任は私に、深沢七郎氏涙の記者会見(☆記事)
- 7 「北国歌壇二月賞」近藤芳美選
- 8 「文学と父、大仏次郎『帰郷』」福田清人
 「北国俳壇二月賞」細見綾子選
- 10 「アジア・アフリカの連帯」野間宏
 「なにが本当か」唐木順三
 「北国歌壇二月賞」長沢美津選
 「扱いにくい『作家の酒』」巖谷大四
 「文学と父、尾崎士郎『人生劇場』」吉田精一
 「村松梢風をいたむ」梅崎春生
 「最近のチエコ文学」無署名
 「地方文化の姿勢」宮本憲一
 「ニューヨークの古本屋」波多野完治
 「文学と父、西条八十の詩」木俣修
 「北国歌壇」近藤芳美選
 「北国俳壇」細見綾子選
 「学徒の季節」(☆短歌9首)藤田福夫
 「北国歌壇」近藤芳美選
 「北国俳壇」細見綾子選
 「愚禿・親鸞―再開にあたって―」久保田正衛
 「ある年の三月三日」森田たま
 「文壇こぼれ話」(☆寺内大吉、杉森久英、堀田善衛)
 「王様になったキツネ」(☆童話)橋本ときお
 小説「御璽」を全文取り消し、戸田教諭発表(☆記事)
 「文壇ゴシップ」(☆開高健、真船豊)
 「庄迫者への対策を」中村慎吉
 「ヨーロッパ人と野鳥」中西悟堂
 「北国歌壇」長沢美津選
 「北国俳壇」富安風生選

- //夕 「北国柳壇二月課題賞」麻生路郎選
 「文学と父、長塚節『土』」福田清人
 9 「北国歌壇三月賞」長沢美津、近藤芳美選
 10 「北国歌壇三月賞」長沢美津、近藤芳美選
 16 三島由紀夫氏訴えられる、有田八郎氏にモデル小説で（☆
 記事）
 17 「北国俳壇三月賞」富安風生、細見綾子選
 18 「テト、チチ」（☆童話）小納弘
 24 「さらに高い次元を・四月号の文芸作品」手塚富雄
 // 「『宴のあと』の提訴をめぐる」無署名
 28 「著者をたずねて・三浦哲郎氏」
 // 「文壇ゴシップ」（☆丹羽文雄、高橋義孝）
 29 AA作家会議ひらく（☆記事）
 31 「文学と父・水上滝太郎の『親馬鹿の記』」成瀬正勝
 4 1夕 「谷間のタヌキ」（☆童話）角山勝義
 3 毒舌批評の大宅壮一氏来沢（☆記事）
 5 「時代の先見者―啄木五十年祭所感―」金田一京助
 // 「北国俳壇四月賞」富安風生選
 7 「北国俳壇四月賞」細見綾子選
 8 「風刺的な縮図―その後の内灘をみて―」大宅壮一
 13 「文学と父・菊池寛『父帰る』」成瀬正勝
 // 「ただいま執筆中」小島信夫、高橋義孝
 18 「著者をたずねて・中村真一郎氏」
 19 「金沢へきた中国作家とともに」伊藤武雄
 // 「北国歌壇四月賞」近藤芳美、長沢美津選
 //夕 「千代女忌」蔵タカ
 21 「没日本と脱日本―『無国籍』の大衆芸能」山田宗隆
 // 「ジャズとクラシック」吉田秀和
 25 「著者をたずねて、北杜夫氏」
 27 「文学と父、葛西善蔵『哀しき父』」杉森久英
 29 「あめあめふれふれ」（☆童話）小納弘
 5 9 「子供とお世辞」網野菊
 // 「不眠症と映画」白坂依志夫
 // 「詩の災厄」村野四郎
 // 「教師の自戒」小松伸六
 10 「北国俳壇四月賞」富安風生選
 11 「著者をたずねて・開高健氏」
 12 「北国俳壇五月賞」細見綾子選
 //夕 「北国柳壇四月課題賞」麻生路郎選
 17 「うるわしの五月」川口久雄
 // 「政治と日本の小説」佐伯彰一
 18 「北国歌壇五月賞」近藤芳美・長沢美津選
 // 「作家とカメラ」巖谷大四
 // 「文学と父、徳田秋声『元の枝へ』」吉田精一
 23 「著者をたずねて・倉橋由美子氏」
 26 「ロマンの花・晶子」藤田福夫
 // 「文学と父、田宮虎彦『富士』」高田瑞穂
 30 「作者のことば」源氏鶏太
 31 「政治と文学いかにふれあうか」福田宏年
 6 1 「文学と父、山本有三『波』」福田清人
 // 「東京・丸の内」源氏鶏太 37・1・26
 2 「西田哲学と現代人」橋本芳契
 // 「北国歌壇八月賞」近藤芳美選
 // 「別れのムード」城山三郎
 6 「新しい作家に期待―転換期にある児童文学」菅忠道
 8 「サロン小説として規格化―七月号の中間小説」田野辺薫
 15 「暗い魂の告白―ムンクの版画展に寄せて」東山魁夷

234 回完

- 「アイヒマン裁判傍聴した村松剛氏」(☆談話)
 「文学と父、志賀直哉『和解』」成瀬正勝
 「北国俳壇六月賞」富安風生・細見綾子選
 「七月号の文芸作品」三輪秀彦
 「文学と父、幸田文『勲章』」成瀬正勝
 「森の都の『赤レンガ』―四高への郷愁」神保龍二
 「北国歌壇六月賞」長沢美津選
 雑誌「種蒔く人」を復刻出版(☆記事)
 「彼女の魂の伝記を―林芙美子の十回忌」平林たい子
 「『悪徳の栄え』のサド裁判近づく」白井健三郎
 「女ごころのナゾ」古谷綱武
 「カブキと現代」矢代静一
 「芸術の運命」谷川徹三
 「新開拓者精神」清水忠次郎
 「ヘミングウェイの死」大久保康雄
 「北国俳壇七月賞」富安風生選
 「七月の歳時記」浜田波川
 「文芸雑誌と連載小説」十返肇
 童話「コリスの手紙」坪井純子
 「私の好きなテレビ番組『日本の素顔』」大江健三郎
 「北国柳壇六月課題賞」麻生路郎選
 「文壇ゴシップ―水上勉、石原慎太郎、大庭さち子」無署名
 「期待の新人泉大八」無署名
 「北国歌壇六月賞」近藤芳美・長沢美津選
 「風神の門」司馬遼太郎 37・5・6 290回完
 「戦国浮世化粧」山岡荘八 37・7・20 362回完
 「豊富な人生経験」多岐川恭
- 「北国俳壇七月賞」細見綾子選
 「北国歌壇」近藤芳美選
 「『おん』による盛衰記」木下順二作品集Ⅱ」野間宏
 「松川事件と共に12年」倉田巳之助
 「山本周五郎『落葉の隣り』」奥野健男
 「田宮虎彦『小さな赤い花』」無署名
 「軽井沢の作家たち・室生犀星」無署名
 「松本清張はなぜ読まれるか」中田耕治
 「八月の歳時記」浜田波川
 「『ひろしま』の地に熱くしみこんだ苦悶」永瀬清子
 「原民喜を忘れるな―原爆の日に」山本健吉
 「ヒロシマの証言者」前田慶徳
 「孤島のミステリー」伊藤武雄
 「松川事件を傍聴して」佐多稲子
 「軽井沢の作家たち・石坂洋次郎」無署名
 「北国歌壇八月賞」近藤芳美選
 「星を摘む女」小山いと子 37・6・14 310回完
 「フォークナー『八月の光』」佐伯彰一
 「北国俳壇八月賞」富安風生・細見綾子選
 「終戦記念日に」森山啓
 「書評『スポンサーから一言』」星新一
 「なお生々しい戦後―沖繩の昨今」石野径一郎
 「徳田秋声系譜伝」八田健一
 「北国歌壇八月賞」長沢美津選
 「軽井沢の作家たち・丹羽文雄」無署名
 「自作の映画化について」中村真一郎
 「シーズンオフ」尾崎宏次
 「文壇ゴシップ・広津和郎、大岡昇平、江戸川乱歩」無署名

年	日	記事名	著者
20		松本清張の魅力―能登に同行して―（☆記事）	
23		「九月号の文芸雑誌」	杉浦民平
29		「杉本苑子『船と将軍』」	平田次三郎
31		「水上勉『雁の寺』」	無署名
6		「BGと推理小説」	南部きみ子
9		「老人とツエ」	荻原泉井水
6		「文壇ゴシップ・佐藤春夫、木々高太郎、水上勉」	無署名
6		「ある山頂」	深田久弥
6		「学位について」	小松伸六
7		「鏡花忌に」	村松定孝
7		「北国歌壇九月賞」	近藤芳美選
7		「日本の海岸」	寺崎浩
7		「十月号の中間小説」	田野辺薫
8		「文壇ゴシップ・松本清張、阿川弘之」	無署名
8		「北国俳壇九月賞」	富安風生選
13		「北国歌壇九月賞」	長沢美津選
14		「北欧のホテル」	荒正人
14		「文壇ゴシップ・石川達三、伊藤整」	無署名
19		「いいた・もも『斥候よ、夜はなほ長きや』」	井上光晴
21		「文壇ゴシップ・遠藤周作、堀田善衛、山岡壮八」	無署名
27		「十月号の文芸作品」	三輪秀彦
27		「北国俳壇九月賞」	細見綾子選
27		「日本の湖」	宮内寒弥
28		「細野燕台翁の死に」	殿田良作
28		「作家と野球」	岩谷大四
3		「松井須磨子の一面」	尾崎宏次
3		「能登路の文学碑をたずねて」	遠田勝良
4		「百冊の岩波文庫」	吉田健一
4		「北国俳壇十月賞」	富安風生選
5		「十月の歳時記」	浜田波川
5		「非芸術祭」	今東光
7		「文壇ゴシップ・高見順、十返肇、庄野潤三」	無署名
7		「犀川」（犀星氏作）の作曲募る（☆記事）	
9		加越能文学散歩・石川県の巻（☆特集記事）	
9		「北方型の文学」	勝本清一郎
11		「北国歌壇十月賞」	近藤芳美選
11		「北国柳壇九月課題賞」	麻生路郎選
12		「文化の交流―鑑賞の目を開いた大衆」	田近憲三
12		「音楽を愛するとは？」	中島健蔵
14		「モスクワのときわ木」	芦田高子
14		「俵屋宗達と郷土」	山科杏亭
16		『石川県児童文化五十年史』を読んで	鈴木紀子
16		「原子力科学の発展と父作太郎の思い出」	藤岡由夫（☆講演筆記）
18		「能登路の文学碑をたずねて」	遠田勝良
18		「北国俳壇十月賞」	細見綾子選
20		「美しき犀川の流れに」	松尾ちよ子
24		「高文連・詩の大会入選作品」（☆四作）	
25		「十一月号の文芸作品」	三輪秀彦
11		君はどんな本を読む、県下高校図書館利用調べ（☆記事）	
3		「ひん死の白鳥」	伊藤武雄
8		「民族的な文学―ノーベル賞のアンドリッチ」	小松清
8		「私の読書へんれき」	小竹武夫
10		「北国歌壇十一月賞」	近藤芳美選
10		『女坂』を読んで	松田幸枝

- 25 " 22 19 " " 15 " 13 12 11 10 8 6 5 " " 12 29 28 24 " 22 " " " 17 15 "
- " 「北国俳壇十一月賞」 富安風生選
- " 「北国柳壇十月課題賞」 麻生路郎選
- " 「晩秋の歌」 津田嘉信
- " 「北国俳壇十一月賞」 細見綾子選
- " 「対談・山を語る」 深田久弥・細川沙多子
- " 「冬きたりなば」 宮川靖
- " 「文学青年、十二月号文芸雑誌にみる」 杉浦明平
- 24 " 「犀星の詩」 新保千代子
- 28 " 「能登路の文学碑をたずねて」 遠田勝良
- 29 " 「北斎その作品と人間（☆特集記事）」
- 1 " 「郷土文壇の最近の収穫」 藤田福夫
- " " 「今日の不安—モスクワにて—」 大江健三郎
- " " 「北国俳壇十二月賞」 富安風生選
- 5 " 「高校生文芸入選作」
- 6 " 「『文博』の尾山さん」 上山南洋
- 8 " 「師走有閑」 金子曾政
- 10 " 「壮士島田一郎・彼と六人の暗殺者」 中村喜久雄
- 11 " 「堀田善衛『海鳴りの底から』」 山本健吉
- 12 " 「能登路の文学碑をたずねて」 遠田勝良
- 13 " 「北国歌壇十二月賞」 近藤芳美選
- " " 「アジアの二面相」 橋本芳契
- 15 " 「師走有感」 杉原竹女
- " " 「北国歌壇十二月賞」 長沢美津選
- 19 " 「最近の推理小説」 谷本敏雄
- 22 " 「文豪鏡花の菩提寺をたずねて」 南島肇
- " " 「北国俳壇十二月賞」 細見綾子選
- " " 「川端康成『眠れる美女』」 森井道男
- " " 「中谷宇吉郎『太陽は東から出る』」 青木重雄
- 26 " 「能登路の文学碑をたずねて」 遠田勝良
- " " 「『国宝の主』」 黒田桜の園
- 27 " 「混とんの一年—目立つ文学的事件」 佐伯彰一
- " " 「郷土茶道界の先駆者」 山科杏亭
- 29 " 「作家と日記」 岩谷大四
- " " 「しわすに思う」 長田恒雄
- 1 " 昭和三十七年
- 1 " 詩「白山の美林に讃す」 中西悟堂
- " " 「キメこまやかな加賀美人」 今東光
- " " 「知りたい北国女性の心」 寺内大吉
- " " 「東京にいる金沢娘」（☆座談会、曾野綾子他）
- " " 「年頭の易」 井伏鱒二
- " " 「新年俳歌壇入選作」 近藤芳美・富安風生選
- " " 「日本語の距離」 吉川幸次郎
- 4 " 「北国新年創作入選作・餌」 武川竜雄
- 7 " 「野田宇太郎『日本の文学都市』」 浅野郁代
- 12 " 「北国俳壇新年課題」 富安風生選
- " " 「若い人々への期待」 大沢衛
- 19 " 「一月の俳句」 浜田波川
- " " 「抵抗の民話の発見—再び郷土民話について—」 清酒時男
- " " 「フランスの若い人たち」 大江健三郎
- " " 「哲学の失われた時代」 鬼頭英一
- " " 「今東光『化身』」 森井道男
- " " 「ことしの執筆プラン」 寺田透
- 23 " 「能登路の文学碑をたずねて」 遠田勝良
- 24 " 芥川賞に宇野氏、直木賞は伊藤氏（☆記事）

25	文学碑をきれいに、金沢ライオンズクラブ鏡花碑に十五万円（☆記事）	23	「土を愛する心」白鳥省吾
26	「好意のもてる『悪』—今東光とその作品」武蔵野次郎	28	「三月号の文芸雑誌」杉浦明平
〃	「芥川、直木賞の受賞作」小松伸六	〃	「吉屋信子『香取夫人の生涯』」本多吉信
〃	「伊藤整『ヨーロッパの旅とアメリカの生活』」本多吉信	32	「推理小説月評」谷本敏雄
27	「悪徳」今東光 10・25 270回完	〃	「詩人相川俊孝の生涯」青山克弥
29	「佐多稲子『愛とおそれと』」青木重之	〃	「伝統と前衛の対立Ⅱ俳壇をゆさぶる前衛俳句」無署名
30	「能登路の文学碑をたずねて」遠田勝良	〃	「コラム・杉森久英氏の新作『天才と狂人の間』」
31	「ニセモノ時代の喜劇」佐伯彰一	〃	「大岡昇平『逆杉』」森井道男
〃	「日米文化交流について」フランク・D・アンダーウッド	6	「能登路の文学碑をたずねて」遠田勝良
〃	「文房四宝」小松砂丘	7	「島田清次郎と私」杉森久英
2	「きびしい文学の道」宮内寒弥	〃	「北国歌壇三月賞」近藤芳美選
〃	「北国俳壇二月賞」富安風生選	9夕	「四月号の中間小説」田野辺薫
3	「室生朝子『赤とんぼ記』」森井道男	13	「能登路の文学碑調査を顧みて」遠田勝良
〃	「水上勉の長編三作」谷本敏雄	19	「三郎さんのこと」室生犀星（☆「造形」59号転載）
5	「カメラ修業」宮内寒弥	〃	「死ぬのは早かった」都賀田勇馬
6	「能登路の文学碑をたずねて」遠田勝良	20	「作者の言葉」富田常雄
7	「雪の日記抄」宮野茂太郎	24	「不合理と笑い」多田治夫
〃	「絶望の政治」村松剛	〃	「四月号の文芸作品」佐伯彰一
〃	「イスラエル印象」久田欣一	26	「犀星氏が重体に（☆記事）」
〃	「北国歌壇二月賞」近藤芳美選	27	「春の渚」富田常雄 38・5・2 400回完
12	「花田清輝『もう一つの修羅』」村松剛	28	「室生犀星氏死去（☆記事）」
13	「伊藤整『虹』」森井道男	〃	「加賀で迎えた沖繩戦のころ」石野径一郎 29、31日 全3回
〃	「中村光夫『佐藤春夫論』」平野謙	29	「水声光子『贖』」森井道男
16	「『青春物語』の立野信之氏」無署名	30	「室生犀星をおもう」水声光子、杉森久英
〃	「鷗外生誕百周年」高橋義孝	4	「菊とマーガレット」長沢美津
20	「地方劇団は悩む」西川孝幸	4	「四月の俳句」浜田波川
〃	「能登路の文学碑をたずねて」遠田勝良	26日	

- 〃タ 「吉行淳之介『星の降る夜の物語』」 青木重之
 6 「好学の風を起こせ」 山室静
 7タ 「つづれ錦—室生さんと一代議士と」 岡良一
 8 「滝川駿『世阿弥』」 丸岡明
 9タ 「漫々の、だが必ずの国」 芦田高子
 10 「金沢城に思う」 大友奎堂
 〃 「歌ひとすじに」 青山兵吉
 〃タ 「作家生活に終止符—モーム『作家の立場から』」 篠田一士
 11 「雪」の中谷博士死去(☆記事)
 14 「島本久恵『長流』全八巻」 野田宇太郎
 15 「北国柳壇三月課題賞」 麻生路郎選
 〃 「石川達三『僕たちの失敗』」 森井道男
 18 「室生犀星の遺稿『好色』」
 20 「映画評書いて二十六年」 伊藤武雄
 〃 「戦争文学の一筋—伊藤桂一『螢の河』」 平田次三郎
 22 「内面化された世界—中村真一郎『恋の泉』」 手塚富雄
 〃 「書きおろしの多い本格派—推理小説の新人群」 中島河太郎
 25 「北国歌壇四月賞」 近藤芳美選
 〃 「北国俳壇四月賞」 富安風生選
 〃タ 「作者の言葉」 黒岩重吾
 5 1 「たくわえた地方生活の知識—文学の新人も多く出た」 森山啓
 〃 「緑の女」 竹沢基
 〃 「阿川弘之『カレーライス』」 福田茂夫
 〃 「サマセット・モーム『作家の立場から』」 佐伯彰一
 2 「室生犀星『四角い卵』」 森井道男
 4 「忘れられぬかの花・かの室」 細見綾子
 7 「心に止まる『切り抜き』」 長沢美津
 〃タ 「女の小箱」 黒岩重吾 38・3・29 321回完
 〃 「犀星の遺稿『好色』(仮題)」 西敏明
 9 「犀星しのぶ諸行事(☆記事)」
 10 「白山を通じての恋人」 中西悟堂
 〃 「ふるさとの演劇界に寄せる」 吉安光徳
 〃 「北国俳壇五月賞」 富安風生選
 〃 「北国歌壇五月賞」 近藤芳美選
 〃 「曾野綾子『リオ・グランデ』」 久保田正文
 12 「五月の俳句」 浜田波川
 〃タ 「むかしのこと むかしのひと」 なかのしげはる 14日3回完
 15タ 「駅前レストラン」 山田克郎 17日3回完
 18タ 「香林坊裏の雑踏よ」 小松伸六 20日3回完
 21タ 「あの頃の七尾」 杉森久英 23日3回完
 〃 「井上靖『洪水』」 森井道男
 24タ 「那谷村・わが友」 陣出達郎 25・28日3回完
 26 「内灘にひそむ『人間の戦い』—大江健三郎氏のルポを読んで」 前田慶穂
 〃 「共に考える文学へ—かわりゆく児童文学」 無署名
 29 「推理小説月評」 谷本敏雄
 30タ 「長かった浅野川大橋から犀川神社まで」 窪川鶴次郎 31・1日3回完
 6 1タ 「伊藤桂一『水と微風の世界』」 西敏明
 2 「北国俳壇五月賞」 富安風生選
 3タ 「無声堂時代」 井上靖 4日完
 〃タ 「白山、野谷荘司」 小松砂丘

- 5夕 「武田繁太郎『銀座夫人』」 浅野郁代
 7 「作者の言葉」 沢野久雄
 #夕 「石原慎太郎『断崖』」 青木宣之
 10夕 「中村雄二郎『現代情念論』」 小島信夫
 13 文芸春秋文化講演会（水上勉他）（☆記事）
 14 「雨の日」 幸田文
 #夕 「保高德藏『作家と文壇』」 西敏明
 15夕 「明日を思わず」 沢野久雄 38・4・21 310 回完
 17夕 「谷崎潤一郎『瘋癲老人日記』」 中村光夫
 19夕 「加賀淳子『炎に生きる』」 浅野郁代
 21夕 「西脇教授のこと」 山下久男
 #夕 「富田常雄『清流』」 福田茂夫
 #夕 「水上勉『死の流域』」 黒岩重吾『脂のしたたり』 中田耕治
 22 「各国の愛国心」 竹山道雄
 23夕 「山の孤独」 梶井重雄
 30 『白山』によせて」 深田久弥、和歌森太郎、宮本憲一、井尻正一
 7 2夕 「森山啓『三郎と若枝』」 西敏明
 5夕 「梶井重雄歌集『寒潮』」 藤田福夫
 7 「目と芸術の心」 松田権六
 # 「七月の俳句」 浜田波川
 # 「北国俳壇六月賞」 富安風生選
 # 「北国歌壇六月賞」 近藤芳美選
 10夕 「田宮虎彦『私のダイヤモンド』」 森井道男
 12夕 「作者のことば」 角田喜久雄
 16夕 「平林たい子『不毛』」 西敏明
 18夕 「中村真一郎『告別療法』」 福田茂夫
 9 1 29 25 23 19 18 # # 16 # 14 12 # 7 # 5 4 2夕 28 # # # 24 26 # 21夕 24 26 # 21夕
 「寝みだれ夜叉」 角田喜久雄 38・7・20 357 回完
 直木賞は杉森久英氏（七尾市出身）（☆記事）
 直木賞まぶしそうな杉森さん（☆記事）
 「芥川・直木賞をめぐる」 無名新人とベテラン」 駒田信一
 #夕 「労作の受賞を喜ぶ」 橋本芳契
 #夕 「盗聴のモラルと直木賞」 杉森久英
 28 「かくれた宝庫―能登の阿岸の本誓寺」 井本農一
 # 「子供に文学はなぜ必要か」 関英雄
 8 2夕 「大森光章『名門』」 浅野郁代
 4 「事実小説より奇なり」 勝尾金弥
 5 「異例の二編入選―江戸川乱歩賞を選考して」 江戸川乱歩
 # 「井上友一郎『絹年代記』」 福田茂夫
 7 「臼井吉見『小説の味わい方』」 西敏明
 # 「ゆたかな収穫―四つの類型の秀作」 鈴木幸夫
 12 「西欧的な学問的精神―柳田国男先生をいたむ」 神島二郎
 14 「川端康成『古都』」 森井道男
 # 「詩壇論評」 伊藤信吉
 16 金沢に尾山氏の歌碑（☆記事）
 # 「山岡荘八『徳川家康』」 浅野郁代
 # 「インタビュ―木山捷平」
 18 「杉森久英著『天才と狂人の間』普及版を発売」 無署名
 19 犀星追悼の心こめ、今夜公演前進座一行金沢入り（☆記事）
 23 「純文学論争の論点」 無署名
 25 「新劇という肩書き」 尾崎宏次
 29 「九月号の文芸雑誌から」 花田清輝
 9 1 「北陸路に来て」 長田恒雄

- 16 # 14 # 13 # 9 7 # # 10 2 25 # 20 18 17 16 15 13 10 8 7 4 # 2 # # 18 # 19 # 21 # 24 # 27 # 28 29 # # 11 1 2 4 # 4 # 5 6 # # # 8
- 「北国俳壇八月賞」富安風生選
 「書評・芹沢光治良『人間の運命』」浅野郁代
 「黒岩氏の意気ごみ『女の小箱』の作者」無署名
 「鏡花の墓」木田たつ夫
 吉川英治氏危篤(☆記事)
 「吉川英治さんをおいたむ」小島政二郎
 「川柳にも自由を」桜井六葉
 「北国歌壇八月賞」近藤芳美選
 「吉川文学について」十返肇
 「吉川英治文学の年輪」尾崎秀樹
 「書評・西条八十『我愛の記』」森井道男
 「川柳の日に思う」森下冬青
 「北国柳壇八月賞」麻生路郎選
 「インタビュ―大江健三郎氏」
 「文壇ゴシップ・正宗白鳥氏、安部公房氏」
 「子どもと戦争読み物」上笹一郎
 「江戸川乱歩賞受賞作」中田耕治
 「高井準治『岬』」芦田高子
 「新田次郎『風の遺産』」西敏明
 「源氏鶏太『御身』」森井道男
 「吉田茂『大磯随想』大野伴睦『回想録』」十返肇
 「川村晃『美談の出發』」西敏明
 「私と白山」中西悟堂
 辻政信さんを書きたい、杉森氏、にしきを飾って郷土入り(☆記事)
 「句集『ワシントンの花』を読む」杉原竹女
 犀星文学碑、犀川べりか卯辰山(☆記事)
 円地文子、講演(☆記事)
- 「円地文子『女の繭』」浅野郁代
 「北国歌壇九月賞」近藤芳美選
 「子母沢寛『花と奔流』」福田茂夫
 「ことばと時代」浅井恵倫
 「サド裁判」無署名
 「郷土と作家」円地文子(☆講演要旨)
 「花咲き実がなれ―思い出の北陸児童文学」角山勝義
 「若い世代に注目―伝統派と前衛派の泥じあい」金子兜太
 「橋爪健『多喜二虐殺』」西敏明
 「地方文化の問題点」(☆座談会、杉森久英・森山啓・伊藤武雄)
 歌人、尾山篤二郎さん16年ぶりの帰郷(☆記事)
 「歌碑の除幕」上山南洋
 「正宗白鳥の死を悼む」河上徹太郎
 「吉屋信子『自伝的女流文壇史』」瀬戸内晴美
 「安岡章太郎『花祭』」浅野郁代
 「戦後文学」とはなにか」篠田一士 2日完
 白鳥氏の葬儀(☆記事)
 「白秋ゆきて二十年」木俣修
 「たくましい生命力―かの子碑」岡本太郎
 「山岸外史『人間太宰治』」森井道男
 「ビールスに勝った黒岩重吾氏」無署名
 「消息・杉森久英氏」
 「現代短歌の課題」若林のぶ
 「北国歌壇十月賞」近藤芳美選
 「北国俳壇十月賞」富安風生選
 「座椅子」杉森久英
 「推理小説時評」鈴木幸夫

- 夕 金沢は指折りの芸術都市、有馬生馬氏が来沢（☆記事）
 10 「鏡花・明治の花園―秋の文学散歩によせて」 森井道男
 〃 「室生朝子『晩年の父犀星』」 西敏明
 11 「遠藤周作『結婚』」 福田茂夫
 17 「秋声忌とその文学碑―『秋の文学散歩』によせて」 宮川 靖
 18 「尾崎一雄『まぼろしの記』」 無署名
 21 「野間宏『わが塔はそこに立つ』」 福田茂夫
 〃 「句集『能登』を読む」 山本清嗣
 24 「作家『犀星』を追う―文学散歩に寄せて」 新保千代子
 25 日本文学は欧州と同水準、法政大の小田切教授が来沢（☆記事）
 〃 夕 「橋爪健『多喜二虐殺』」 無署名
 12 4 夕 「無形文化財の一例」 杉森久英
 5 「作家の死―叙情型と叙事型」 福田宏年
 〃 「文学とセックスと」 中村喜久男
 6 「十二月の文芸雑誌」 花田清輝
 〃 夕 「高見順『愛が扉をたたく時』」 和田芳恵
 〃 夕 「読書インタビュ―村山知義氏」 無署名
 〃 7 「自然詠の多い伝統派」 葛原繁
 〃 「暗雲のなかに（85） 暁鳥門下と仏青同盟」（☆島田清次郎のこと）
 9 夕 「推理小説時評」 鈴木幸夫
 〃 夕 「文壇トピックス」（☆阿川弘之・池波正太郎）
 11 夕 「冬は住み憂き」 杉森久英
 12 「昭和の謎・辻政信、杉森久英氏『文春』に新連載」 横山
 15 「長沢美津『女人和歌大系』」 川口久雄
 18 夕 「私信」 杉森久英
 19 「ことしの顔・梶山季之氏」 無署名
 20 「読書インタビュ―田宮虎彦」 無署名
 〃 「高橋和巳『悲の器』」 駒田信二
 22 「愛するということ」 北条誠（☆講演要旨）
 〃 「ことしの顔・安部公房氏」 無署名
 〃 「五味川純平『孤独の賭け』」 西敏明
 24 「固まってきた現代俳句」 金子兜太
 〃 「寺西正雄『残照』」 山瀬利夫
 〃 「ことしの顔・戸川昌子さん」 無署名
 25 夕 「ラジオの思い出」 杉森久英
 26 「うるわしい『友愛』―正宗白鳥と深沢七郎」 福田宏年
 〃 「ことしの顔・平野謙氏」
 30 「そとの風」 藤田福夫
 〃 「臼井吉見『むくどり通信』」 浅野郁代
 〃 「ハンカチのネズミ」 安住敦
 31 「なき父の心のなかに」 室生朝子
 〃 「正月の思い出」 水芦光子